



開卷驚奇俠客傳

萬世集

二

3157
1



13 85
3157
1-25

曲亭主人著 溪齋英泉畫

開卷驚馬奇俠客傳

第壹集 天保重光單闕 羣玉堂精刊



常五

俠客傳第一集自序



譏讀
如非



老氏曰大道廢有仁義仁義者道之異稱也而有似而非者故韓非比儒俠擯斥之曰儒以文亂法俠以武犯禁二者皆譏而學士多稱於世云夫俠之為言彊也持也輕生高氣排難解紛孔子所謂殺身成仁者是已司馬遷及傳游俠其序援韓子且曰季次原憲間巷人也讀書懷獨行君子之德不苟合當世當世亦笑之又曰今游俠其行雖不軌於正

天保重光單闕

羣玉堂精刊

義然其言必信其行必果已諾必誠不愛其
軀赴士之阨困既已存以死生矣而不矜其
能羞伐其德蓋亦有足多者此有憤激而言
之是以其語厚而意深也班固不原此意以
其進奸雄譏之可謂誤矣今于彼書檢之則
有延陵孟嘗春申平原信陵之徒皆卿相富
厚之俠也至如閭巷之俠又有朱家田仲王
公劇孟郭解數人自漢而後迨唐有劍俠有
女俠小說所載不遑毛舉也

國朝自古必有其人在焉但無論記傳載之
以余所聞近世有大鳥居逸平關東小六幡
隨長兵及號茨城草袴白柄大小神祇者皆
是閭巷之俠而其所為或未必合於義當立
氣齊作威福結私交以立彊於世者也較諸
古者道德之士不動聲色消宇內之大變者
相去非唯宵壤而已然氣豪以此至捍當世
之兇暴此戰國之餘習未改其私義廉潔以
有然也使當時無此人則士風自是衰俠客

之義曷可少哉。余有感焉，而無所憤激，不激不憤，猶且傳俠客，所以然者，何也？蓋以仁人抱道，猶不免菑，是故新田殂于足羽，楠氏陣歿，湊河大凡，此二公誠忠與日月爭光，德義流芳，而不既惜乎枝葉不再，振榮枯得喪，與南朝終始矣。是以世人不平，以為遺憾，余之固陋，不敢自料，寧思欲排其難解，其紛叨補舊記之闕，文慢載野乘所未言，演義立傳，以快_中人之心。若夫興絕顯隱，非游俠則其事不

潔，使人心愉快，非寓言乃其談，不博無財而能俠其俠，此益竒也。用滑稽善談，罔不出人意，表宜名不虛立，書不虛行，竊有賴于此。又惡問虛之與實哉，是書數十卷，然後可以結局。今茲所著才五卷，是為第一集，其第二集以下，應陸續刊行。云浪華書賈羣玉堂與江戶書賈文溪堂相謀，乞余之著三四年矣。此塞其責者，及刻成，聊亦識歲月。

天保二年端午前一日 曲亭蟬史撰



開卷驚奇俠客傳第壹集總目錄

第壹回

製青囊 著演購 鬪 封白紙 英直託 狷君

第貳回

依遺訓 賢童知 跣 迎旅櫬 義士憐 母子

第參回

照黑夜 螢火導 海濱 誇明察 鼠輩被 恥辱

第肆回

陰德入 老御得 奴婢 陽卜綠鬪 鷄倡主 僕

第伍回

謁林住 南將威 舊綠 演便宜 老尼薦 村酒

三

第陸回

福草村三 兇妻 奇功 釀藥酒 郡領 計來 歷

四

第漆回

七里濱 洪波 洗衆惡 千葉城 土療 埋潮 毒

五

第捌回

啓衣箱 小六 得遺書 救癩疾 著演 失銅 筭

卷

第玖回

御士二 遇癩病 人 光棍初 懺悔 舊惡

五

第拾回

相摸川 小六 視橫 死 遊行寺 著演 葬 蝨 蛉

第一集總目錄終

本集起南朝元中九年 至北朝應永十八年 春秋大凡二十箇年 小說第二集陸續刊行



脇屋右少将義隆



精忠三世
傳迄是君
南史雖絶
猶有遺文
贊脇屋少将
雕窓

藤白隼人正
安同

像替第三

草ふみひめを
清む月の露れ
海もや入む
是名を流さそ
新田主僕
同

畑六郎二
時種



新田
左少将
貞方

像替第四



たつらめもあもつれさう
あけあけのあろろ
かろろ色めれぬ
質小六並母屋

善形堂

姉母屋

館小六
助則

像管第六

六

長五口



千葉介
兼胤

順逆如罔人多捷天
巧恣權詐藥鳩仙
勢利資策惡冠當年
皇天既定冥罰豈愆

善形堂

天

妙算
錢卜
の

像管第五

長五口

俠客傳第一集列傳姓名目録

將相 新田貞方 脇屋義隆 足利滿兼 足利持氏

上杉憲定 千葉介兼胤

武士 野上史著演 館大六英直 畑六郎二時種 上泉秀武

鳥山七郎 船田小二郎 堀口五郎 江田藏人 高柳兵庫 藤白安同

田子勇傳二 荒海灘藏 荒海船藏 野上奴婢之助 館小六助則

婦人 晚稻 母屋 信夫 女僧妙算

市人 逆旅主人肝八 姿鏡屋甲 紅粉阪小正二 臺町猪三太

相摸川高師 名字 客店目四郎

奴隸 字六 画七 畑平 畔藏

通計三十有五名第一集姓名目録終

開卷驚奇俠客傳第一集卷之一

東都 曲亭主人編次

第一回 青穰之製りく著演 髑髏を購ふ 白紙を封りく英直孤君を託す

鹿苑院足利義滿相國の將軍たり。應永の年秋とよ相摸川高座郡藤

澤道場の左盡頭野上史著演と吸做り。一個の御士ありけり。そが租買と尋

る小美濃の野上の人氏ありけり。莊司著實と吸れり。源平壽永の圍戦東軍の

従ひて任糧運送の責を掌り。始終その功あり。源氏一統の後録倉小召指れ

藤澤南郷の邊に莊園三千餘貫を賜り藤澤東西八ヶ邸の目代を任せける

是より數世を累て今の著演大父ありけり。野上自著佐とのひり。後醍醐天皇の

時元弘二年閏六月の鎌倉攻戦新田義貞朝臣の従ひて又任糧運送に



更と日ある。その功をたぬる。新田足利の確執も。の程も。世の又。吉。恩
 賞の沙汰も。ある。刺南北両朝の。義貞朝臣の足羽を陣殺の
 功。若佐を。惜。世。情。退。隱。と。遂。亦。足。利。家。の。催。使。不。従。は。し
 ら。鎌。倉。將。軍。の。時。と。り。所。帶。不。易。の。御。教。書。賜。う。郷。士。と。信。也。出。り
 あり。世。と。安。送。り。の。子。村。主。若。種。の。生。涯。病。を。け。り。官。途。成
 絶。只。讀。書。の。更。と。り。戰。國。の。稀。る。博。士。と。あ。り。れ。も。好。く。人。の。師。と。あ。る。
 素。より。名。を。食。ふ。人。の。知。る。も。あ。る。年。六。十。中。身。を。う。る。子。の。史。若。演
 義。若。演。の。總。角。の。文。と。學。武。と。嗜。く。心。ま。父。祖。の。方。を。既。に。社。年。及。び。比。二
 親。の。喪。在。る。三。年。中。を。侍。儀。常。に。妻。晚。縮。の。空。忠。臣。の。草。命。の。時
 る。孝。子。の。終。身。の。喪。あり。今。在。る。も。豈。一。日。も。忘。れ。ぬ。且。庵。大。父。と。當。初
 新。田。殿。不。従。ひ。つ。て。南。朝。の。為。為。一。臂。の。力。と。盡。す。今。足。利。一。統。の。世。あり

ぬ。と。の。心。を。媚。て。榮。利。を。求。む。る。儀。の。只。の。分。守。り。と。法。度。に。不。差。は。し
 ぬ。名。利。の。奴。と。あ。る。も。わ。か。せ。し。め。恥。と。す。と。論。七。鎌。倉。の。管。領。の。世。に。あ
 年。始。の。言。儀。と。原。景。光。の。參。侍。と。を。欲。せ。し。め。方。さ。る。權。家。と。交。る。と。あ
 とも。素。より。饒。裕。と。す。常。に。施。し。好。む。性。と。く。仗。氣。あり。尚。凶。年。の。値。と。あ
 倉。廩。と。盡。す。粟。と。散。し。と。里。人。の。饑。を。賑。救。せ。ら。る。豊。年。の。亦。路。と。造。り
 橋。の。朽。る。を。修。復。し。と。衆。人。の。資。と。す。口。の。糸。の。を。と。り。大。約。鄰。御。近。邸。の。兵。隊。茶
 家。を。焼。れ。る。或。は。世。の。落。魄。て。餓。渴。の。逼。り。或。は。久。く。病。臥。て。妻。子。を。親。便。者。と。な
 り。然。も。也。不。具。の。婦。人。の。も。あ。る。親。疎。の。差。別。も。米。を。贈。り
 錢。と。取。り。せ。て。必。厚。く。惠。む。と。幾。人。と。あ。る。を。知。る。と。境。を。隔。り。の。を。も。その
 名。を。傳。へ。し。と。あ。る。不。世。ふ。と。世。を。渡。り。難。さ。の。折。々。小。野。上。許。尋。ね。ぬ。と。あ。る
 告。ぐ。と。あ。る。の。居。所。と。姓。名。を。傳。へ。も。向。つ。て。人。別。を。永。樂。錢。三。百。文。と。米。五

姓を取らせける。徳でもその足らざるを。西二回あるとありとも。その折毎に推辞はす
 る形のごとく與へる。人竊ふれを諫めて千仞の海に測るとも人の心の好む量
 正知れぬの多き。名も徳も其本がそ。本を救ふとありぬ。名も宿所も同外を
 東西を取らせぬと人の及び所行なれども。その中より搗鬼ありて。然るまて困窮する
 のも徳を以て諷へ。會するところ多し。その斟酌ありま。その兵者演ら
 せて和殿の意見見定ふよりあり。俺も亦初より。と思ひぬ。あなれども君子は嗟来食を
 受て。疑ふ名を諂ね。居所を賃も回そ。多き施行の義は違ひて。人辱る
 の不似たり。を食悲人の素より論る。その人申緒あるもの。世の幸あるは飢渴
 の勝。此の救は俺もと。根穿り葉を欲す。素生を回す。その人の心。是を
 ぬれ。義とあり。東西と與へる。名を回し。又とあり。虚実あり。此も損合なき
 とも。縦その人告る。困窮者。富の成る。その方。その此を受る。竊偷するあり。

る。優美し。俺の質素と。言と。奴婢を。使。妻子の鹿布を被せ。身
 身も亦疎食と。啖人も。義の為。財と。惜志。親の冥求。義より。只施を言と
 きて。一目疎略せ。ま。は。章。と。莊園。水旱の患。又。年來。俺御の戦
 場。な。ある。も。わ。軍兵の乱。妨。ある。禍。ある。と。施。ある。年。來。歴。れ
 ども。然。と。て。東西の竭。せ。陽報。われ。願。ひ。も。天。降。ある。と。然。も。あり。と。と
 説論。其。諫。の。感。嘆。も。恥。と。悔。も。あ。げ。る。徳。も。野。上。著。演。る。肉。飽。心。地
 や。あ。け。ん。有。一。日。里。の。杜。校。と。れ。彼。も。召。取。る。酒。ち。飲。し。示。さ。す。徃。元。以。の
 擾。乱。より。近。比。比。ま。五。六。十。年。都。も。鄙。も。閉。戦。絶。た。る。戦。場。の。尸。も。曝。と。野
 徑。の。茅。萱。も。肥。も。の。抑。幾。億。方。名。も。け。ん。傳。も。未。達。も。あ。べ。就。中。不。便。も。あ
 る。名。も。る。葉。武。者。雜。兵。矢。石。の。命。も。損。と。も。頭。も。捕。も。ま。も。る。その。亡。骸。も。扛
 と。還。る。身。方。も。亦。卑。る。れ。と。の。白。骨。の。路。備。も。沙。石。を。俱。も。朽。も。あ。らん。汝。達

淵をたゞ黄門とあそぶ。徳人必鬚鬚する。足おも腰毛あると稱之。縁石婦と成得て
 夜毎小予種と持とも。生涯嗣育すと。唐山也。内官あるの。入法
 割去ると。黄門と喚做。その那男子と手を取ら。鐵經明辨あり。佛經の
 を説く。五種の黄門あり。凡ての類を名づけ。肩捕半釋迦とす。載大般若
 經の在りと。願ふ。俺身も黄門也。嗣あるは過せると。獨潭家と婦と七
 去の罪を肩せると。俺門夫婦の伯願空く。あはれく。後多の天り家と古
 とおも甲斐とあり。益をたんと。推禁め。後多のあはれ。詰分西頭ある時陸奥
 州信夫郡関と渡瀬の間に大六郎英直と喚れる。南朝餘類の浪人の妻と
 名と母屋とあり。原是新田の親族多け。大館氏の支流也。父祖の時より義助
 國あて身まうけ。是より以降英直の義治の嫡子ありけ。脇屋右少將義隆朝臣の

書領飛
 記義則
 小作又
 義隆作
 るの
 めの
 写の
 ても

仕へる。累世忠義の老當り。小脇屋義隆より南朝の建徳二年。正五位下
 相摸守に任ぜられ。後天授三年。小從四位下。右少將陸奥守に拜任せられ。陸奥の
 國司に任ぜられ。當時這地も在任と。再従父兄弟も左少將良方朝臣。新田少將義隆。其
 侶も足利方の天敵と。多く挑戦ひつ。多年来。歷程も後龜山天皇の元中九
 年の秋。比賣家。足利氏。より。戸の管。元和睦。請勸め。時將軍足利義満。その
 冬。大内義弘と吉野の行宮へ参り。北朝の當今帝。後醍醐。南帝。後龜山天皇の
 御猶子に做し。且。あ次の日。嗣。南帝の皇子と。御位に即せられ。と
 類の奏。一。ま。南帝。御許容あり。年。閏十月。吉野の白玉居を
 出させ。嵯峨の大覚寺に渡御せし。北朝と後々の御契約。定められ
 かる。月の初五日。御讓位の義と。三種の神器を北朝に讓渡あり。春
 是より。後龜山天皇。新院を稱け。徳と。中間一稔を歴せ。應永元年。春



右
 わけなき日あきさし
 旅ころもねむ根のゆき
 のいさへ入るま

山崎屋

十二

山崎屋



左
 眼痛瘰古骨
 家狭言做仁

山崎屋第一軒巻二

山崎屋

其後叙爵して後五位下右馬介補任せられ天授二年北朝の秋九月軍功賞と
 志従五位上小升進し左馬頭さきにあらはれる。尤も武略の達人なり義隆朝臣と共侶陸
 奥に在りて武家の大敵と戦ふに屢あり。天授六年北朝の秋九月の及之比流矢の爲に傷
 られる。金瘡竟る命危むとて年二十九に卒せり。然れども氏宗氏義胞兄弟の大父多
 大館二郎宗氏主元弘三年慶二年夏五月新田殿義隆の隊に属して鎌倉を陣致せし
 より父祖二世忠義撓まを南朝の爲に始終死力を盡したる勇將なり。其夢の世也
 皆是画餅とあり果て郎君の爲に後見せし者あり。其賸郎君の母上産後の
 病者肥立むと五稔前ふ世と述ゆ。今亦父中將へ弓折は勢究りて往方も定め
 落亡の心を察訪ふの軒端の松風篋子かぶとの下に鳴く虫あり外に絶てるもの。獨
 大六英直の大館氏の庶流也。忠臣を貳ののりければ郎君生れぬ。比も英直を
 傳られて妻の母屋と郎君の姪母とせしけれ。只是の事あり。義隆四十一の歳に

郎君生れぬゆへ俗に四十二の歳見えたる子の二親の母ありと俗に傳へ義
 隆朝臣もその義を據りて郎君を襁褓の中にも大館氏を冒りて英直を見よ
 よと。乳名を英直の俗稱に因りて小六と名づけしをゆへに。後由緒ある主従
 是の義隆武藏落の折英直夫婦を召近りて。俺今自方鳩を爲す武藏授て
 赴け。那首を敵地の安危を越す料を。その救済を待たば。携り便取
 此所爲然らるる武運護く由あり。父子一所敷れる。遺恨のなき。汝の這
 地小苗の跡に埋め親を變て小六と守育よ。多うん今番の伴に先途を看
 たらんより。遙に優て第一の忠臣とありん。せよ。と宣し。家の系圖と重代の
 菊一文字の石刀を英直に預けぬ。是より英直の妻の母屋共侶小六を冊に
 姓を變形貌を。関と渡瀬の間に。字を楯鎖と。冷色を。論小。白。屋。を
 未だ僅小膝を容る。鄙語を坐と。食へ山も。于。此。聲。論。漏。林。財。祿。を。

英直の篤竹を麻屋の糸を繰るる。細煙を吹かす。得東西足
りぬ。英直の一個の女兒の。名を信夫と喚做す。小六九と同庚也。今
茲五才の。母屋の乳傳の。乳母と字せし。英直が小六九俱と
府城を落す。女兒信夫が乳母也。身の暇を取せ。今主従親子の。左右も七
育の年稍七才の。秋城隍祭の試樂の日。信夫の。外小半。入る。扱
され。往方も。英直母屋の。驚馬。目。麻屋。彼此。送。隈。々
索。の。竟。の。忠。義。の。為。の。捨。得。郎。君。の。恙。も。幸。ひ。ん。ん。
深。の。世。の。小六九。英直。家子。と。入。告。て。苟。も。主。従。の。小六九。中
成長の。後。主。従。と。素。生。を。知。り。ま。る。ん。ん。何。事。も。以。て。歳。月。を。麻。屋
隨。小六九。英直。親子。の。親。女。弟。を。以。て。時。々。信。夫。が。の。出。て。陝。死
袂。と。濡。る。梅。の。身。の。孝。友。の。賢。人。と。せ。せ。英直。母屋。の。辱。ま。泣。下。と。ま。れ。嶋

通鳥の。を。遣。の。願。い。る。日。艱。苦。の。中。小。年。園。て。心。永。も。既。ふ。な。な。十。年。小。六。九。小六
九。年。の。稍。九。才。の。去。去。歳。の。春。より。英直。生。活。の。暇。も。毎。日。習。讀。書。を
教。ま。る。行。儀。正。く。の。性。伶。利。の。知。子。首。の。賢。才。の。言
と。人。權。せ。も。駭。を。又。九。子。路。武。勇。の。後。憑。り。け。れ。英直。夫。婦。の。軟。く。必。ふ
つ。死。て。心。の。所。主。君。少。將。の。う。る。け。り。五。松。の。意。を。旨。御。本。意。を。遂。げ。の。の。の。の。
里。の。蟄。伏。れ。て。し。り。ま。る。ん。ん。然。と。訪。し。る。其。方。の。空。を。左。も。其。眺。め
ら。し。く。不。樂。の。存。り。今。茲。二。月。の。下。院。微。吹。の。風。の。立。信。あり。義。隆。朝。臣。の。年
來。武。藏。相。模。路。世。を。潛。び。て。甚。思。ある。武。士。勇。卒。を。招。集。し。て。世。の。勢。を。後
ひ。て。義。不。仕。道。を。守。り。稀。之。愁。の。以。て。毛。を。吹。た。疵。を。求。る。の。を。遠。慮。し。て。旅。宿
を。立。て。光。陰。を。送。り。去。歳。より。相。摸。の。厚。朴。を。其。甲。許。御。座。を。極。可。の
腰。痛。の。病。病。幾。及。り。起。居。自。由。の。成。り。る。六。七。年。比。陸。奥。の。戦。場。也。落。馬

廿上ありける。今その撲傷の發りたる湯治其宜うんを。年来左右の役ひきつ
 船由鳥山高弁。江田堀口を吸れる。近臣鏡小五名を以て。竊小貌姑岩在。林鹿路
 多。底倉小赴給ひて。姑湯治あつて。その方さるる消息と。輝詳あつて。然程小
 英直の音耗あつて。左さるる右さるる。右少將の病着の撲傷の言を。は
 程多。瘡の瘻も然とも。左少不定の世。尚も温泉の相応。ゆゑ。餘病護を。ひき
 肺を。喉を。さるる。言ひ。這首。也。の。を。あ。る。豫て。仰。置。れる。御。説。中。違。ふ。郎。君。俱
 一なり。の。相。摸。不。赴。給。て。御。容。體。も。同。へ。今。大。路。を。あ。り。あ。り。郎。君。外。さ。る。を。存。を
 る。小。優。と。あ。つ。と。母。思。や。母。屋。小。の。も。あ。る。を。其。示。と。猛。可。逆。旅。の。准。備。兼。小。六
 九。の。の。里。の。住。り。さ。皆。共。侶。の。相。摸。る。親。族。許。赴。く。を。以。訪。て。却。里。人。の。任。々。と
 とい。述。別。に。告。ぐ。家具。雜。具。の。へ。の。家。も。售。て。盤。纏。と。主。後。丈。婦。鏡。小。五。名。最
 慌。忙。し。首。途。々。相。摸。を。投。て。を。け。り。却。説。館。大。六。郎。英。直。の。妻。の。母。屋。と。共。侶。小

今も三子
 里小
 里小
 里小

六九と扶掖。その見大路。町二里七八里。走之。馳。宿。を。投。わ。積。之。四。日。と。程。折。り。肆
 月の初旬。あつた。天寒。ゆ。も。見。有。る。馬。の。尾。皆。用。追。を。蠟。も。千里。若。く。は。俺。の。去。向。の。と
 長。日。の。睡。癖。比。く。早。百。合。の。花。玲。々。開。初。野。甲。注。連。結。種。卸。翌。之。踰。を。先。厚
 薄。山。の。新。樹。朝。曇。雲。降。り。や。若。草。盧。鶴。の。集。る。方。遠。く。を。れ。快。過。と。や。吸。子
 鳥。が。つ。つ。ま。と。い。ふ。さ。の。夫。婦。が。慰。む。尚。然。角。の。初。旅。路。日。數。累。て。武。藏。を。渡。る。假
 郷。を。過。り。比。と。英。直。猛。胸。膈。疼。之。心。地。死。せ。く。思。ふ。を。肩。然。と。面。色。し。て。の。夜。假
 名。川。の。客。店。小。宿。投。り。初。母。屋。小。首。様。々。と。恙。あ。る。を。知。し。貯。藏。る。九。葉。飲
 下。さ。せ。か。む。此。の。效。驗。も。あ。り。け。れ。母。屋。小。六。九。も。驚。馬。直。及。つ。り。も。枕。邊。小
 あり。足。方。待。待。と。背。を。捺。り。あ。る。程。夏。の。夜。あ。り。と。明。け。登。時。母。屋。逆。旅。主。人。良
 人の病着。任々。と。告。ぐ。醫。師。を。徵。め。り。主。人。の。軀。を。あ。り。て。這。驛。を。醫。師。許。人。を
 遣。り。召。來。た。と。述。ぶ。療。治。を。請。り。是。の。件。の。醫。師。は。且。英。直。の。脈。を。診。ひ。容

体言細小詰り却退して母屋のいさや。夫々の月比大心労あひら。とるや有つん。
 病疾心痛也。雷相露の恙不あわね。一町へとも歩行を忌む。瘵る日と短留と。宿の
 ぬる看とらぬいそ。耳次方某を吹咀し。復を米ぬと。然程小母屋六宿の
 泥爐を借り。茶を煎り。良人小甚辱め。小六丸も心ざら。側と去と慰め。六七日を歷は
 程は英直の絶さんとせ。病苦聊退して。夜も呻吟をぞ。一日半碗の粥を
 喫さるのしけり。然や旅の悲しみの身小痺兒の杖並前向の肩を濡み。人草枕徒
 は旅宿の病臥ち。瘵瘦と氣力の衰と。不就此は。不つて。妻と子と心の憂は。遣り
 方絶てる。まふ。の。目眩も。毎少く杜鵑も。不如帰と。鳴と。い。適も。
 れ。陸奥より。遠く來り。悔し。神小生佛の。願甲斐あり。夏樹植鎮守の
 神社へ。兩個と。送代。幾回。熟言。朝々。離色。の。雪。花。も。長。日。景。班
 消て。立。ま。免。月。も。既。晦。途。比。鎌倉。より。旅。客。們。が。譚。を。重

紙戸隔る。這方の夫婦。心も。程。那。旅。客。の。け。わ。脇。屋。少。將。義。隆。主。
 年来相摸る。所親許深く。潜びて。し。け。と。知。の。り。小。近。曾。恙。あ。れ。者。
 纒。小。四。五。名。と。俱。一。七。親。姑。峯。の。麓。路。る。底。倉。倉。赴。あ。り。且。湯。治。去。の。程。小。鄰。郷。の。人。
 氏。の。け。藤。白。棚。九。郎。安。同。と。吸。武。士。の。し。と。知。り。快。推。寄。て。討。捕。れ。夜。
 敷。の。准。備。と。ま。の。身。の。隊。兵。の。と。あ。土。兵。野。武。士。們。を。招。取。て。百。四。五。十。名。迎。梅。雨。降。を。
 夜。小。紛。れ。暗。晝。と。定。め。と。推。寄。來。の。義。隆。主。の。り。ま。浴。室。の。四。下。と。捕。籠。と。吐。と
 揚。る。閑。の。声。姑。く。鳴。を。静。ま。て。馬。兼。找。め。棚。九。郎。四。下。小。御。音。声。苛。め。く。宮。方。の。落。人。
 有。脇。屋。義。隆。快。出。鎌。倉。官。領。家。の。御。諒。小。依。て。鄰。郷。氣。賀。の。人。氏。藤。白。棚。九。郎。
 安。同。が。勢。を。以。向。小。言。遣。る。逃。る。兵。們。と。呼。ぶ。声。と。共。侶。小。齊。月。一。競。小。可。隊。の。軍。兵。色。倒。
 一。戸。を。打。破。り。七。先。と。争。三。十。名。不。管。七。二。一。欄。入。り。あ。け。る。と。義。隆。主。の。道。行。の。
 侍。船。田。小。二。郎。鳥。山。七。郎。堀。口。五。郎。江。田。高。柳。五。郎。五。名。不。過。され。執。務。の。忠。臣。勇。士。の。必

死の覚期此も驛々たるゆゑとの隨ふまゝ大刀を投擲し稠々敵を破り馳散
 敵を靡けて此と先途と戦ふる烈しき修煉の刀火に向ひての誰か免れず真額利本會
 車斫鎌の蔓をたぎりて瞬間に三千人鮮血塗れて輾るもの両個成て伏をの
 枕と並敷まれりゆゑに奇事の視み餘る大勢るれ物ともせし自方の尸骸と踏踏を嘔
 叫ぶ直攻の前より自方小遮られて後退す比自弓矢箭前刺て透洞々々射るける矢柄を今
 降る雨より敏系く鳥夜不異めく鎧長刀の雲間と洩る月よりも隈るのける本舊敵を突戦
 何山果べーとも見えぬけりあるあれも衆寡の勢ひ人鐵石あざされ然し一人當五船
 田鳥山江田堀口高柵們一個と七數人所深瘡を負ぬるければ是をを以てけん近つ
 敵と引組んで刺違々々雨夜の星とみらぬく一歩も去らで戦死をけん得る勇士を
 有任程も義隆主出居の杉戸を盾中つ用心の為枕小建る角弓合と差詰り詰
 敵十四五名射て仆り箭種も竭んとせ折近臣們的皆敷れり訪然り退りて腹

切りと獨語て臥房を投り入る藤白が兄弟に田子勇傳次佐貞を見て鎧を拍
 跟る来り耶と声被て刺させ義隆閃りと身を反り蛭巻左の無前め透さる右の
 抜合る及頭をささる擲ちる窟違に勇傳次の胸前と敷き串れて苦と叫ぶ声
 と共仰反仆れて息絶すその間も義隆主奥より一室を銀燈で腹掻切て俯の首取
 期本月廿四日夏四月の真夜中比のふくと享年四十九歳とぞえし痛みの世は名
 將南朝股肱の武臣もも三年の大義時至る命運其処も場め藤白連が銀
 軍慮は攻惱されて腹を研されるを憂懸るれ然程小藤白柵九郎安自隊勢中下
 知くと脇屋殿の首級を賜りたる餘近臣五名の首級ありては小の首をさす
 一箇も小牌を付首函小斂め相推して次の日管領の御館へまゐりてはさす
 當主鎌倉の管領足利滿兼朝臣基景の孫斜るを執りては首級を授けり
 柵九郎が宣ふも義隆の朝敵也且當家累世の讎言れ日暮の他陸奥に



高柳宗茂

十九

高柳宗茂



松根山をとりて人々の
底倉藤白撃右皮將
るけのきりのたぬ目とる

高柳宗茂

多と安ん比よ。さき之往方と索ひて久し知るよき。安同輒く討捕てまわす
 甘夕神妙の義京師へ注進未及。日室町殿も大之多き。満足思召。御這
 回の功賞とて。安同の氣賀底倉不莊を賜ふ。又隊兵の功ある。感状を取
 へ。今より本府に在任して。忠勤を励む。とみづから仰下されければ。棚九郎の身餘
 る恩。拜と退出ける。徒而又その次の日。義隆主役の首級共。由比の濱邊。自來られ
 し。咱目前来て。東より。その為体。任する。野間の内海。義朝主の敷を。之
 又その孫頼家卿の伊豆の修善寺。之絞られ。這回底倉。義隆主の敷を。之
 皆浴室。信源氏の大將達。之箇多。浴室。死所。不忠。議の
 わ。寝多。説話。相宿の外。哀れ。知。良。一調。高。訛。声。要。時。旅。宿。の
 真。遣。人。會。然。多。と。正。心。嘆。息。の外。多。く。母。屋。初。頭。顯。樓。良。人
 と。俱。敬。耳。裏。胸。の内。苦。泣。泣。声。立。下。と。楚。と。啣。締。る。袖。涙。の。玉。散。り。て

中。と。ま。知。ら。ぬ。小。六。九。き。義。小。聰。け。快。世。の。轉。変。小。卷。を。捺。る。懐。も。英。真。堪
 ぬ。秘。歎。送。恨。の。腸。断。忽。地。胸。塞。て。一。声。高。く。叫。び。血。を。吐。く。野。小。仰。さ。る。小
 撞。と。倒。れ。母。屋。内。小。六。九。も。あ。し。麻。の。小。と。駭。駭。抱。起。り。呼。活。声。小。主
 人。も。走。り。來。り。共。侶。勸。め。人。と。醫。師。の。宿。所。走。り。來。り。茶。を。徵。め。御。攪。由。酌。る
 けれ。英。直。の。や。や。れ。あ。つ。て。主人。と。醫。師。飲。み。送。り。の。氣。を。ぬ。す。枕。小。就。む。と。も
 左。も。右。も。本。復。心。の。と。れ。く。と。り。小。睡。れ。ぬ。隨。小。の。通。宵。ひ。と。久。後。の。深。念。を。ま。る。右。少
 將。の。御。武。運。微。く。敷。れ。ぬ。と。し。小。命。終。了。誰。う。又。郎。君。の。守。冊。に。く
 類。育。せ。新。田。の。餘。類。と。知。る。小。命。鼓。捕。んと。あり。ま。せ。一。日。も。宿。を。致。し。ぬ。る。に。せ。ぬ
 る。い。と。の。せ。せ。ゆ。ゆ。藤。澤。中。野。上。吏。著。演。と。喚。れ。る。最。饒。裕。多。御。士。あり。世。小。有
 ぬ。家。僕。也。義。と。守。る。城。の。如。く。惡。と。瘴。む。正。仇。の。若。く。弱。を。資。け。衰。を。憐。む。生。平。に
 施。と。好。と。財。貨。を。惜。ま。ぬ。その。性。と。く。俠。氣。あり。勢。利。小。隸。を。權。家。小。媚。む。御。向。小

鄰郡近郷。戦死の骸骨一萬餘級を集めて塚を築きた好事を修行し、慈悲の
 菩提を授けんとす。知る知る人もある。今の世の中、小六殿を託すもの、那人ありて、
 下と思ひても、俺の年来縁を切れ。一面の交りあり。や俺身の死後、至りて書きて
 せ、其のりきるとも、何と云ふ。樹の影、いふまじ。と云ひ難。左さ右さ尋思。は、儘不
 便。點とる。一ふ。その詰且小六九と母屋も側。と云ふ折辛しと身と起。いと長。ち。は。白
 紙と書状の。よく巻篋て。さう。固く封皮と。墨才の筆と。披合と。野上史殿。ま。ま。ま。
 新田の餘類館大六郎英直と。さう。な。標。寫。果。息。吻。あ。ま。ま。の。封。状。と。枕。の。下。へ
 布んと。思。ひ。ま。撲。地。と。臥。う。け。は。任。ま。危。に。病。病。より。苦。い。世。と。ま。あ。ら。ま。い。

第二回

遺訓に依り賢童踞踏を知る
 旅櫛と迎て義士母子と憐む

却説去の朝小六九。又只親の病着の平愈。と。祈。ら。ん。と。鎮。守。の。神。社。へ。ま。わ。り。く。

英直の母屋を呼て杖起。を。さ。る。伏。小。枕。を。生。罪。れ。て。權。の。四。下。ふ。あ。ら。う。け。ま。て。再。側。小。招
 近。つ。日。然。る。も。細。り。一。声。と。低。れ。渾。家。の。何。と。ま。ら。し。右。少。將。主。従。の。底。倉。君。と。敷。れ。ぬ。い。
 その。既。小。分。明。な。宿。念。六。日。の。昔。蒲。の。り。た。を。れ。め。と。る。と。俺。露。命。を。也。且。不。通。り。な。り。
 傍。て。む。あ。く。る。る。ふ。何。人。の。亦。郎。君。と。一。日。も。合。藏。ま。わ。り。死。今。の。世。の。人。心。新。田。の。餘。類。を
 樹。と。伐。彈。一。草。と。は。又。蝎。と。も。索。せ。ま。ん。と。の。も。あ。ら。う。や。隱。形。五。道。の。幻。術。隱。菩。菩。金。の。り
 と。も。の。え。の。下。小。六。殿。を。潜。せ。ま。ら。せ。ん。と。ま。か。も。あ。ら。う。不。幸。か。一。個。の。知。巴。の。り。な。這。假。名
 川の。驛。の。路。程。遠。く。も。あ。ら。ぬ。相。摸。州。藤。澤。の。御。士。也。野。上。史。某。者。演。と。喚。做。せ。ぬ。り。
 量。裏。歳。俺。少。う。一。時。鎌。倉。近。く。潜。ぬ。敵。地。の。虚。実。と。探。ま。と。る。主。君。の。密。計。と。直。示
 たり。と。藤。澤。の。旅。宿。に。且。且。逗。留。ま。ら。し。比。那。某。者。演。と。喚。近。て。交。は。か。ら。ぬ。隨。小。送。お
 意。中。と。諦。せ。し。り。遂。小。捨。た。れ。ぬ。い。の。り。と。竊。め。我。と。結。合。て。異。姓。の。口。小。弟。の。り。は。死
 あり。の。り。の。昨。ま。の。り。と。思。ひ。て。渾。家。の。知。甚。と。干。捨。あ。ら。う。歴。の。り。も。れ。も。他。を。義。我。小

赤 叛くものありて俺死す。柩と共小六殿小俱し。あはせ。そ。那首へ赴はぬ。あ。の。故。の。
 病苦を忍び。著演人與。の。書翰一通。寫り措。那宿所。到ら。目。の。主。人。
 遍。与。る。苗。れ。と。疑。ひ。る。あ。り。と。小六殿の主君の。死。子。あ。り。の。著。演。も。の。
 是。老。の。と。俺。們。見。え。の。と。勿。論。又。小六殿。も。あ。る。の。極。祿。の。中。も。入。被。る。育。
 ま。せ。う。け。れ。只。俺。們。を。実。の。父。実。の。母。と。の。と。あ。り。と。二。親。の。う。へ。ゆ。え。新。男。餘。類。の。
 は。と。あ。る。も。告。げ。ば。知。り。召。れ。痛。死。の。限。り。も。あ。る。な。ら。ぬ。九。歳。あ。り。の。あ。せ。と。潜。ぶ。身。情。
 由。の。知。せ。ま。う。と。後。の。用。心。不。備。ま。い。不。覺。と。攬。せ。あ。る。と。あ。る。の。義。を。あ。る。の。め。命。却。介。
 後。小六殿。の。年。十五。六。あ。り。の。あ。竊。か。素。生。と。告。ま。う。と。御。家。大。殿。右。少。將。の。送。下。色。
 系。圖。の。一。卷。菊。一。文。字。上。の。た。え。え。の。あ。の。餘。の。東。西。も。送。る。遍。与。し。ま。あ。り。と。然。る。と。
 渾。家。の。功。績。良。人。不。代。の。忠。心。貞。節。の。久。後。漏。心。の。あ。り。の。れ。と。方。寸。の。収。め。洩。し。あ。る。
 と。う。返。し。今。般。の。遺。言。一。句。毎。息。迫。り。病。苦。屈。せ。忠。義。の。魂。枕。邊。近。措。せ。

た。行。果。の。裡。より。と。件。の。二。種。と。ま。り。と。封。書。と。共。小。邊。と。ま。り。と。母。屋。の。涙。の。く。く。
 是。の。尉。の。難。後。の。事。の。れ。の。と。云。と。汲。て。の。と。膽。向。心。細。輪。の。由。井。の。あ。り。と。目。力。う。
 収。せ。ま。う。と。い。ふ。る。身。の。性。方。別。れ。悲。死。の。海。の。岸。の。底。豆。栗。の。く。く。十。何。
 成。め。の。難。小。俯。論。と。い。ふ。と。頭。と。撞。て。宣。ふ。の。米。忠。比。目。忠。義。の。為。の。と。理。の。
 収。め。の。事。を。と。あ。る。の。と。然。し。も。覚。期。の。あ。り。の。と。假。寐。の。あ。り。の。病。者。の。搗。加。
 え。と。底。倉。の。凶。計。の。洩。せ。ま。う。と。其。餌。も。ま。り。の。あ。り。と。世。の。長。く。と。あ。り。の。あ。り。の。兼。
 る。あ。り。の。果。敢。る。の。浮。世。の。口。順。の。死。と。千。年。と。歴。と。え。と。生。ま。一。日。を。勝。ま。う。と。の。あ。り。
 の。あ。り。の。あ。り。の。及。び。あ。り。の。將。息。と。親。育。君。の。あ。り。の。年。と。延。ん。と。あ。り。の。心。よ。う。と。あ。り。の。年。來。の。
 氣。質。の。似。け。の。あ。り。の。返。ら。ぬ。の。と。あ。り。の。思。と。知。の。あ。り。の。信。ま。う。と。あ。り。の。あ。り。
 ら。今。茲。九。歳。の。折。を。尉。の。親。の。為。の。あ。り。の。死。の。世。の。あ。り。の。あ。り。の。火。の。葉。石。の。盡。
 処。教。京。師。の。そ。の。飲。真。愛。の。あ。り。の。あ。り。の。絶。て。ま。う。衣。履。の。親。子。の。縁。し。と。あ。り。の。

英直推禁めり。益るは詩言人のあやむとん信まづるの不便をと思ふあわねども忠臣を
 親とも忘る況幼穉は女の子のあやむ。今ゆらあ暇のあやむ哀別離苦の悟道の提徑を
 せよと後世の念と。俺樂んで死を俟ん。主君の讎言を藤白奴を敷きさかしの儀黄
 泉の空と。きりけん三朽をく九の世と。あつとも忘るるやあは然るもあれども定業多ふら見え
 丸のあやむあは回快の三種を取藏めざる。と励されてあり。わは妻のあやむ引あはる。行
 袱へ舊思の如く。東西より飲れて引結ひ中帯被る韓組切のぬれて短くあり。長は別れを
 後知る言の端を表れて燈火滅んと。きると光の増せ。例に似る。英直が病病間の
 中。盡せ。送訓を健氣する。然程の英直。その夜艾より胸痛の病苦ぬさび劇く。きり
 又血を多く吐く。母屋小六丸。其侶小胸を苦む。自愛阿。湯茶をまをく。薦かども英直
 衰果。水粒共の吭を下る。次の目の腫脹。一声叫ぶ呼吸絶け。徳あはべ。一と豫より
 其のり。あはねども。又今ゆらああ覚。母屋小六丸の哀傷悲泣の壁言る小物さあ。一泡

沫夢幻の浮世を。狭き生死流轉の苦海。漂ひまど。果ぬ旅衣を。経宇衫を。脱
 更に。往て。返らぬ人の。數ふ。入る人の。留り難。妻の。孤雁の。伴侶。後れ。亦。相。候。小
 離れ。至。悲。断腸の。血の。涙。呼ぶ。夜。合。あ。ら。わ。の。花。塗。枕。白。粥。の。枕。ま。送。一。合。中。も。さ。め。り
 果敢る。其。夢の。跡。た。れ。は。あ。ら。わ。ひ。と。あ。る。難。死。と。知。る。自。小。緯。訪。ふ。有。り。ま。め。り。亦。只
 逆旅主人の。正首の。慰め。不慮の。宿。致せ。夜。より。勿。妻。子の。長。病。者。見。ぬ
 瘡の。あ。ら。む。と。這。間。で。身。ま。ら。あ。ひ。う。ら。後。悔。も。推。量。あ。れ。て。不。便。の。あ。ら。む。も。亡。骸。と
 本驛。小。井。屋。ら。ん。と。わ。ら。ふ。地。方。の。法。の。私。の。執。措。の。う。ら。驛。長。の。指。揮。を。京。で。左。右。も
 つ。ま。り。ん。成。り。あ。ら。う。近。死。の。う。ら。由。縁。の。方。が。あ。る。あ。ら。う。で。その。人。許。亡。骸。を。引。と。せ。ん。と
 以。ひ。あ。ら。う。驛。長。小。報。る。あ。及。ぶ。あ。ら。う。任。せ。あ。ら。ん。と。の。あ。母。屋。の。涙。を。き。め。り。あ。ら。う。趣
 あ。ら。う。ゆ。ら。一。河。の。流。を。汲。む。と。一。樹。の。林。陰。の。寄。り。あ。ら。う。も。比。目。是。他。生。の。縁。と。せ。ん。と
 へ。と。殊。ゆ。ら。あ。ら。う。病。中。より。大。と。あ。ら。う。厄。會。あ。ら。う。け。り。う。甲。斐。あ。ら。う。と。這。首。あ。

信長傳第一 車巻一

三十一

身まうらひりし過世あつてのふてをわらわ知りて女のみひと十才の足る子ひり
 る小都知とまの旅宿中へ住る不幸のあひはる心細きを察しあつた後とて母且
 高量敵多ふるためひひ其方のふりも亡夫の送言あり這首よりと遠くもあ藤澤
 中亡夫の昔由縁のゆるゆりあ名をうへ這間あゆゆとて野上史と喚れる
 地方の世を歴御士はらの年来疎遠するかと適て頼み身引請て其の吉母子の
 うささ等雨あせし床さうと翌の風め亡骸を行轎うち乗して藤澤へ俱とてまはし
 あの美と瀧とゆるあつてのふ主人あつて野上大人の高名も這間であつたあつた那
 人さあ大なるぬ慈善小く狭氣あり戦死の髑髏一萬餘級と其方のあ仁者ふ
 とらせこれ小傷る由縁あつた然る人さあ近御小在りと知り病中まて告遣り
 あつたけい憂苦も他支と送れぬひ女儀の脱落は是非及ぶも然るは任はるらん
 箇様々々あつたと翌の準備と助言し快桶さの柩とをの嚙氏自買さうし

その身も軀もも傷つて其直の亡骸と件の柩の飲めけり徳而母屋のその通霄良人れ
 柩とら成するその甲夜回小六九の密ひさ示さう阿見のきと知さべし答々公と
 新田の餘類を脇屋殿の御家臣より人さあ御主君少将さあ陸奥と落ぬひ
 折敷も執送されておん在処も知とあり今茲は相摸の底倉御座とてはさ
 実の那処へまわると起ゆゆ甲斐も二日路も足らぬ程ふと病病の為推留ら
 と本意とゆ遂に御主君の底倉中を敷れぬひ答々公も遂に世と逝りあつて緯のあ
 及ぶる御高小は報うし野上史のふも吾侪のまも對面さ名とゆも這間をめぐ
 ねれと昔昔答々公と義と結び第と取り兄とられ好あれが骨肉の親類も優
 まて瀧心めん那処へあつた身と寓せよとの送りのあつたあつた世も憚る親子け入を
 人小知られて緯の難義小及人目のあつたあつた決りぬら小六の年尚十の足らぬ
 角まればあれのよと知ま過ぎかも竊小示と覚期とせよとのれとてさう

外なる洩しのひそと生るるうちひく小六丸。涙を振絞は頭を擡て貌を更之仰うけ
 なるひる腸屋殿の陸奥。落させぬ比へも俺四五才許る時め有つるを果ぬ
 夢の心地と人の唾すさるる。親の故主とせしを悔しめ今ゆのひるを
 みるる登々公のうへ小恙もる。那処へもあらず。俱に戦死あつた左ても存命を
 本本意小慥せぬん。救生送り。俺身も多し恨れぬ。故主の讎言敵那藤白を
 討捕す。神霊と慰めならん。且候せぬ。腕を扼し母屋ハ吐嗟と推禁め。や
 声高一人のあやう。獅子の生れその目も。百獸威伏の勢ひ。蛇蝎ハ僅一寸する物も吞
 と欲まる。氣あつ。このひの仇のうへも似る。年ぬ倍て遅く。讎言を敷んと。叱るあわね
 とも。潜れぬ世と潜る身。出さる。幸ひる。及ぶ。起て。氣色を人の悟らる。親
 三身さへ亡ふべし。不覚ふ。の。と。徹られて小六丸ハ過言る。誠ハ然る。と
 忘る。口も針さる。然程の夜さ。母屋ハ主人ハ。僦賃と醫醫師の謝銀。柩の價

行轡の損料も。の。隨不送る。還と。後か。と。思ひ。候と。有。首の夜の向明とを
 る比。謙下宿より。詭を。兩個の轡夫。時と違へ。无常。復輿を。ち。肩掛て。来
 徳々と。呼門。主人ハ。躬て。指揮と。柩を。擡起さる。件の。復輿。無せ。な。と。是。と。う
 先ハ。母屋。小六丸。早飯と。薦られ。存一膳。小向ひ。る。徳。折。中。筆。も。進。身。装
 ち。行。累。ハ。復輿。の。附。け。親子。の。駝。ひ。草。鞋。と。引。提。り。物。と。死。主。人。并。家。内
 者。女。婢。們。ハ。別。れ。告。る。口。誼。の。胸。の。塞。り。解。算。く。哀。情。ま。ろ。ろ。程。の。天。の
 明。て。茂。林。と。ま。る。鳥。の。声。も。常。か。わ。り。の。心。裏。哀。れ。涙。の。路。の。ま。も。去。向。ハ。僅。お。坂
 東。路。一。野。三。十。里。ハ。足。ら。ば。最。も。日。長。比。る。れ。ば。亭。午。ふ。る。復。同。件。の。復。輿。
 引。添。ふ。藤。澤。の。御。末。子。の。母。不。知。れ。野。上。の。宿。所。の。隠。れ。あ。る。も。あ。れ。れ。母
 屋。ハ。復。輿。と。ち。卸。さ。し。故。意。後。門。より。找。入。高。三。声。呼。門。程。ハ。執。次。の。若。當。當。係
 へ。忘。と。答。て。立。出。る。登。時。母。屋。ハ。小。腰。折。め。奴。家。ハ。這。里。の。御。主人。の。親。類。某。甲。が

病苦も初小倍して。送恨の方多うけん血と吐くと野。その後僅の三日中。竟に息絶
つる。其の終区の前一。日聊病病の病あり折の送されと云。干稔を前比良人を
主君の仰と京で。這地ある。這道せ折係々の古又より。西編の身と義と結び。弟と
るの兄とあれ。その縛の趣。初て奴家と説示と。俺と那人と。かか。如。素より異姓の
兄弟も。相別れより。天の一方山河千里を隔る。身年年来言交はれ。胡越の過
たり。然れども。野上生の義の背くも。俺死を極を極で。那里到と。と。報上契
し。と。忘れず。汝們母子を憐まん。那人の戦死の體一萬餘級を購集せ。其の
すえ。信実慈善二人と得。海内一の俠者。今の世と。英直。妻と子共。憑心
の。那人を。誰や。この。這義と。あ。の。町。寧。選。言。病。苦。と。忍。び。て。寫。措。る。書
翰。その折遞と。され。る。と。尙。さ。漏。る。と。具。は。知。ら。れ。り。と。の。御。庇。を。仰。ぐ。と。の。声。曇。の。袖。の。雨。蓑。代。衣。の。ぬ。れ。も。照。る。日。の。疎。世。を。陝。布。の。行。袂。を。ち。披。て。英。直。が

送。た。る。那。一。封。と。遞。与。ま。せ。辛。有。漬。の。里。下。の。縛。ひ。と。と。記。憶。の。あ。ら。は。ま。ふ。ら
收。情。由。も。且。その。書。翰。と。受。と。と。え。れ。正。く。標。識。の。野。上。史。殿。ま。あ。ら。ま。新。田。餘。類
館。大。六。郎。英。直。と。あ。ら。馳。て。封。皮。と。推。折。せ。披。て。られ。白。紙。の。証。し。た。り。限。り。も。な。し。然。し
收。貌。と。ま。ま。く。と。そ。の。尽。な。る。巻。竹。籠。と。肚。裏。の。あ。ら。ま。英。直。俺。と。一。面。の。交。り。あ。ら。ま。ら。縁
と。俺。行。状。と。傳。て。妻。子。と。託。せ。と。欲。ま。る。書。記。と。な。り。の。は。れ。標。書。景。の。姓。名。を
寫。と。白。紙。と。封。せ。し。の。ね。い。の。小。優。と。の。苦。い。意。中。と。示。せ。か。え。然。し。其。身。姓。姓
名。新。田。餘。類。と。題。書。ま。る。の。忌。憚。る。と。素。生。と。隱。さ。悔。の。と。の。赤。心。を。其。本
心。と。妻。子。の。ま。ま。明。々。地。の。知。る。と。異。姓。の。兄。弟。も。と。の。瞞。め。は。恠。々。と。俺。の。新。田。の。告
ま。る。白。紙。の。状。の。自。注。と。世。の。憚。り。あ。ら。ま。の。妻。子。と。知。る。と。の。も。義。の。為。の。後。難。を。計。せ
む。七。必。よ。枝。持。志。死。著。演。と。あ。れ。け。れ。尙。今。と。い。ふ。不。と。是。等。の。さ。及。ん。ぬ。と。か。は。不
英。真。脇。屋。少。將。義。隆。朝。臣。の。家。諫。る。と。疑。む。俺。大。父。著。佐。大。人。新。田。在。傳。從

ひら元弘の功ありといへども義貞亡きをゆひ世に情の退隱せしより不肖の体は至る
 まも出て足利家の仕さるに那英直のまてのよきを知りてや知るやそを左に右もあれ
 今より母子を家の留めて。羈旅の難義を極むる未見の知己の背くべ。父祖の送念の違
 ふる似ら。嗚呼余も。天地の毒思を母屋に對ひて。自今示談せられ。輝の趣実か由
 あり。館生といゆる。時天地に推言義を結び。竊に異姓の兄弟。なげけるの。這御
 程遠く。假名川の旅亭に病を引まじり。告も来りけ。只一。訪る。と
 長に別れ。る。非如自筆の書翰。その妻の子の訪
 向を。強面。の。終に臨みて。信叮寧。一通。送され。今。疑
 べ。此。小。意。ある。母。子の。う。其。有。演。身。引。受。て。生涯。疎。疎
 去。杖。も。極。上。子。息。何。処。送。る。詰。末。初。側。引。著。措。せ。て。俺。不
 隔。の。世。憑。り。美。引。れる。人の。誠。又。袖。濡。り。母。屋。の。鼻。と。ち。ち。て。年来。良。人の

疎遠を。其舊契。不違。い。せ。めで。と。美。た。心。の。歎。中。の。歎。ひ。を。人の。為。ゆ。も
 是。の。優。る。追。薦。の。亦。あ。る。あ。る。小。六。を。極。成。り。後。門。前。不。送。措。せ。終。終
 信。と。報。知。せ。る。辱。し。め。快。快。い。は。と。の。立。を。推。禁。め。る。月。雲。時
 這。首。不。坐。せ。俺。の。礼。服。更。めて。俱。極。迎。へ。と。辭。せ。う。説。示。と。當。り。鳴
 ら。せ。一。個。の。若。黨。忘。る。遠。く。来。ま。け。側。招。近。つ。て。汝。も。あ。る。後。門
 前。小。の。來。客。の。総。角。角。の。俺。任。せ。ら。成。の。旅。観。の。日。假。名。川。の。客。店。身
 前。の。俺。親。類。の。亡。骸。を。今。俺。出。て。迎。へ。れ。は。老。僕。と。共。在。客。四。名。許。り。俺
 任。の。信。と。報。て。極。上。成。れ。快。く。せ。と。急。と。追。遣。り。母。屋。對。ひ。て。自。今。せ。れ。俺
 某。の。奥。へ。退。る。御。母子。來。意。の。趣。を。荆。妻。の。知。ま。く。多。衣。裳。更。めて。極。上。信。と
 是。て。且。く。允。の。と。辭。と。貞。へ。退。る。時。著。演。の。妻。の。晚。稻。の。母。屋。親。子。の。説。示
 説。示。の。機。密。の。英。直。を。年。來。の。義。兄。弟。と。の。以。知。と。任。す。眼。も。来



奇人難見休將仗
梅娘相子秋景兒君

かゆ

大正八年一月廿六日

六九



秋もこのころをぬる門の
陰徳總一理禍福唯自末
莫道天公遠方寸任悠悠
くつたて一子小からせやうき

虎因光納書
陰徳詩
普賢記
義
朝細

あは

小六

何物傳第一輯卷一

更えには。そのの身みも衣裳いせうも更えに復ま客房きやくぼう不出いて。誘まとるる母屋ははやと恨うらむ。前まへに赴むく
 程ほど母屋ははや先まへ走はり。小六こむすく九く若わ者しや演あげ。兼か引ひて。今いま柩こを迎むかへ。輝あの首くび尾びを告つぐ。小六こむすく九く
 感あ涙なみだの進まむ。覺おぼえした。柩こを離はなれて。若わ者しや演あげ。迎むかへ。若わ者しや演あげ。逆さかにはて。遠とほく。杖つゑを
 つと。和殿わだんへ。小六こむすく九く。若わ者しや演あげ。旅たび亭ていに。父ちちをもつ。哀あはれしき。傷やみ。艱く苦くを。推おしやす。
 痛いたみ。死しのうら。も。あ。然しかれ。と。ち。敷しき。も。死しのうら。親おやの。懸かる。あ。わ。れ。か。う。う。愛あひ。の。後のち。後のち。
 撫なむ。も。亦また。是こゝ。孝かうと。佳よし。猶なほ。子この。と。と。礼れい記き。本ほん。文ぶん。見みえ。れ。け。し。と。若わ者しや演あげ。又また。と。ち。ち。小六こむすく九く。
 亦また。子こ。と。ち。若わ者しや演あげ。甘あまい。と。ち。後のち。を。あ。と。と。慰なぐさめ。れ。て。小六こむすく九く。若わ者しや演あげ。恭こう。と。拜らい。見みえ。時とき。の。不ふ祥しやう。も。
 止と。若わ者しや演あげ。且かつ。感あれ。下した。且かつ。促うめ。と。若わ者しや演あげ。指さ。揮うり。柩こ。を。来き。り。行ゆ。横よこ。興きやう。と。受う。取と。り。若わ者しや演あげ。門かど。内うち。除ぞ。
 僅わずか。入い。り。け。は。是こゝ。の。下した。若わ者しや演あげ。護まも。り。越こ。甚し。麻あ。を。若わ者しや演あげ。若わ者しや演あげ。卷まき。の。と。ち。ゆ。解と。け。分わ。り。と。聽き。終は。り。

開卷敬馬奇俠客傳第一集卷之一終

常五



リ

